

学力向上に向けた取組事例

各学校では、学力向上に向けた様々な取組が進められています。今回は、基礎的・基本的な内容を確実に習得させる取組や、学校と家庭・地域が一体となった取組を展開している小規模の小学校の事例を紹介します。

知・徳・体のバランスの重視

朝の全校ランニングとボランティア活動

毎朝、集団登校により7時35分頃には、全児童が登校します。登校した児童はみんな自主的にグラウンドを走っています。

走り終えた児童から、ボランティア活動に取りかかります。この日は、サッカーゴールを移動する作業を行いました。すべての児童が進んで協力していました。また、教室に入る時間になると、リーダーの児童のかけ声により、一瞬にして校舎の中に入っていく子どもたちの姿が印象的でした。



基礎的・基本的な内容の確実な習得

全校「朝の計算タイム」

8時5分からは、朝の読書を10分間行います。その後、チャイムと同時に一人ひとりの児童がファイルを手にして、オープンスペースに集まってきます。毎朝の全校での計算タイムの始まりです。児童は自分の取り組むべき課題を把握しており、自分でプリントを探し出し、計算した後、答え合わせまでを行います。

校長先生をはじめ、すべての先生がその場に参加し、答え合わせの終わった児童のプリントのチェックを行います。わずか10分ではありますが、毎朝の取組を継続することで、すべての児童に基礎的・基本的な内容が確実に定着するとともに、計算のスピードや正確さも身に付いてきました。



子どもたちの学力を育む土台の大切さ

最後までやり遂げようとする姿

この学校では、全国学力・学習状況調査においてもすべての教科で全国平均正答率を大きく上回りました。これらの成果の要因として一番に挙げられるのは、何ごとにも最後までやり遂げようとする子どもたちの姿ではないかとのお話でした。

運動会に向けた一輪車の練習などでは、いったん帰宅した後に保護者と一緒に学校に来て、できるようになるまで取り組んだ子どもたち。その姿からは、「次の練習までには必ずできるように」「当日の演技は絶対失敗しないように」といった強い意識が感じられ、その意識が学習面においても土台となっているのではないかと、この校長先生の言葉が印象的でした。

やまぐち学習支援プログラム「学力定着状況確認問題」について

学力定着状況確認問題の趣旨

既に、各教育委員会等を通じて御案内していますが、この度、やまぐち学習支援プログラムに「学力定着状況確認問題」を掲載しました。この問題は、次のような趣旨により、県内の先生方の協力を得て作成したものです。

趣旨

- ◎ これまでの全国学力・学習状況調査結果等において課題の見られる内容については、調査の前年度の小学校第5学年や中学校第2学年のみではなく、それ以前の学年からの系統的な指導を充実することが大切ですが、それぞれの学年において確実に定着させておかなければならない内容が十分定着していないことが明らかになっています。
- ◎ また、新しい学習指導要領において加えられた内容の定着状況等についても、今後しっかりと検証していく必要があります。
- ◎ こうしたことを踏まえ、下学年の内容及び当該学年の10月末までに学習した内容について、その定着状況や課題を把握することにより、3学期に改善を図る指導を充実し、当該学年までの学習内容等について確実に定着させて、次の学年に進級するサイクルを構築することができます。

【掲載場所】各教科、各学年「学期末問題」の2学期の欄



3年生		問題	結果入力
1学期	3年1学期末(書くこと、読むこと、言語文化)		結果入力
			結果入力
			結果入力
2学期	3年2学期末Ⅰ(話すこと・聞くこと、書くこと)		結果入力
	3年2学期末Ⅱ(言語文化)		結果入力
	学力定着状況確認問題(小国3年)		結果入力
3学期	3年3学期末Ⅰ(書くこと・読むこと)		結果入力
	3年3学期末Ⅱ(言語文化)		結果入力

県教委では、12月末までにシステムに入力されたデータを基に、今後の改善に向けた分析を行い、その結果を提供する予定です。

県内のすべての児童生徒一人ひとりが確かな学力を身に付け、次の学年へと進級するよう、この問題を積極的に活用していただきたいと思います。